

平成 29 年度第 2 回仙台市科学館協議会議事録

日 時 平成 29 年 12 月 6 日 (水) 15 : 00 ~ 16 : 30

出席者 和泉眞喜子, 伊藤任佐子, 河野裕彦, 田中真美, 平吹喜彦, 本郷栄治, 山田洋一の 7 委員

(欠席 : 大草芳江, 長瀬敏郎, やしろ美香)

石井館長, 温副館長, 菅井主任指導主事, 大津指導主事, 大枝指導主事, 大森主任

次第

- 1 開会
- 2 館長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 報告事項

○平吹会長が議長となり会議を進行

○議長より議事録署名人に河野委員を指名

(1) 平成 29 年度仙台市科学館特別展実績について

大枝指導主事から資料 1, 資料 1 - 2 により説明。

(質疑等)

【河野委員】 3 万 7 千人を超える入館者でしたが, 内訳はわかりますか。高校生が少ないようですが。

【大枝指導主事】 おっしゃるとおり, 高校生は少なかったです。今年は全国の文化部の総体が宮城県で開催されました。放送部の会場が青年文化センターだったので, パンフレットを置かせていただいたところ, 県外の高校生に見に来ていただけたという機会はありましたが, やはり全体的に高校生は少ない傾向にあります。

【河野委員】 特別展の内容的には小・中学生をターゲットにしているので, そことご父兄である一般の来館者は多いけれど, 高校生になると下がってしまう, と。どこに焦点を絞るかが難しいのでしょうか, 今回はそういった結果で。

【石井館長】 来館者が低年齢化している事実は構わないのですが, 科学館として科学を市民に普及させたいと考えれば, 問題は中・高・大学生が欠けている点。中学生については科学館学習という授業を実施しており, その中で展示も見学する構成にしているのです, ある程度参加していただけるのですが, 高校生と大学生

をどうするのが課題であると考えております。中・高・大学生になってくると、科学館に「見に来る」というイメージとは少々違う方法のアプローチがあるのかな、と。例えば科学部の人たちに何かを実演してもらおう。それを見に中・高生たちがやってくる。そういった仕掛けで、参加型の何かを考えられればよいのですが。もしアイデアがあれば教えていただければと思います。中学の科学部がそれぞれの出し物で市民にアピールする「科学縁日」というイベントは試みましたが、好評でした。やはり見てもらうものでは中・高生はなかなか来ないので、何か工夫が必要だと思います。

【河野委員】高校生だと、サイエンスに興味がありアクティブに活動される方と、そうでない方とに別れます。アクティブという所まで行かなくとも「サイエンス＝特別な人がやっている」というイメージでなく、一般の方にも関心を持ってもらえるように持っていければよいのですが。

【石井館長】離れてしまいそうな人にも興味を持ってもらうことも、我々の役割としてあると思います。全国の科学館にとっての課題であると思います。

【本郷委員】「どこで知りましたか」という質問に「ポスター・チラシ」という回答が一番多く、では高校にはどれだけ配っているのかと見ると仙台市立の高校のみ。県立の高校にも配付したら、プラスの影響が出るかと思っておりました。

【温副館長】科学館学習で一度は科学館に来ていて、しかし夏に特別展を開催しているのは知らない、という場合も有り得るかもしれません。知らなかったことが来館に繋がらなかったとも考えられます。県教委との相談になるかと思いますが、何かしら工夫したいと思います。すると次に「高校生にとって見ごたえのある」という重い命題があると思いますが、その辺は色々とお知恵をいただきたいと思います。ただ、あまり高校生向けにしてしまうと小・中学生がわからなくなってしまうので、そこが難しい点かと思えます。

【石井館長】現実に今回の資料1の4ページの入館者数37,777人のあとに未就学児4,365人とあるのですが、これが去年に比べるととても少なく、半分に減っています。未就学の子どもに科学捜査と言ってもうけない所があり、そこが今年の特徴だったと思います。今後、高校生向けのプログラムを作れば、また年齢構成が変わるか。皆に満足してもらえるというのはなかなか難しいことだと思います。

【温副館長】一つのを二つの角度から見てどちらも満足できるものが必要になってきます。

【石井館長】単に見ても面白いし、訳を知るともっと面白いぞ、というものでね。

【河野委員】少々大変になると思いますが、小学校低学年でも簡単に理解できる

ものを、関心がある人には別のルートを作ってあげるといった感じで。小・中学生に関心を持っていただいて、それを繋げて行けるとよいのですが。勿体ないと思います。そこが一番難しいところなのでしょうけれど。

【伊藤委員】チラシとポスターを見て来られたという方が圧倒的に多いのですが、今のお母さん方はホームページなどで情報収集していますので、そちらも活用して広報をされた方がよいと思います。県外からの来館が3年連続で18%ということでしたが、仙台に子ども向けの施設がほとんど無いということで、今、仙台のお母さん方は山形に遊びに行っている状態です。仙台からあれだけ行っているという事は、山形からも来てもらってよいと思っていますし、山形でこれ位本格的な科学館は無いと思いますので、是非もっと来て貰えるような工夫があれば、来館者も増えると思います。チラシですと送るのも大変ですが、ホームページですと、面白そうなイベントに参加・体験させたいと考えているお母さん方はこまめにチェックしていますので、仙台だけではなく他県に向けてもよりアプローチして欲しいです。山形はそういったアピールの仕方が上手です。

【石井館長】山形のどのような所に行かれているのですか。

【伊藤委員】児童館や子どもセンターのような遊び場がたくさんあります。小学生を対象とする施設が多いです。仙台にも児童館があるのですが、遊び場としてのスペースではないので山形に遊びに行っています。盛岡の中央児童館なども上手く広報されています

【石井館長】ありがとうございます。ホームページや広報の手段など、参考にいたします。アンケート結果から、県外からの来館者が何で知ったかという点も確認します。訴え方というのも見えて来るかもしれません。

【田中委員】私も特別展を見学しましたが、大変盛り上がっていると思いました。例年より高学年向けになっている印象でした。来場者もその層が多く、満足している感じも実感しました。

【石井館長】アンケートをとっているのですが、満足度が数値で現れているのですが、本当のところはどういった方がどれだけ満足したのかを掴む方法がなく、難しいところ。今年の特別展は謎解きの要素が入っているので、親子で一緒に考えることができ、満足度といった意味では高かったと思っています。主観的には、楽しんでいただけている気はいたしました。客観的にもわかるとよいのですが。

【平吹会長】いただいた意見などを次回に生かしていただければよいと思います。

(2) 第64回仙台市児童・生徒理科作品展について

大津指導主事から資料2により説明。

(質疑等)

【平吹会長】大変多くの先生方が審査に関わってくださっていると改めて感じま

した。先生方が子どもたちの作品を前に感想を述べ、或いは作品展自体の持ち方などについて意見を交わす機会になっているのでしょうか。

【山田委員】校内の作品だけでなく、多くの研究や標本に触れられるということで、よい研修になっているのではないかと思います。さらに、作品を見る力やまとめる力を身に付けることができるのではないかと感じております。理科に携わる者にとっての、とてもよい目の保養の場・研修の場であったのかなと思っております。

【菅井主任指導主事】資料2の2ページにある審査基準で公平に審査を行っておりますが、ただ今回の審査が終わった後で、学識経験者の大学の先生から、この評価の仕方だと何かひとつ特別よいところがあっても、ある程度バランスよくポイントを取っていないと市長賞・教育長賞には選ばれないというご意見がありました。反省点も含め、明後日の理科作品展の主催者反省会の中で、いろいろな話が出てくるかもしれません。

【和泉委員】3ページの【参考】自由研究の進め方を学ぼうの参加者数が今年度大変少なかったのは、興味がなくなったということではなく、学校行事などと重なったことが原因なのですね。

【大津指導主事】そのように分析しています。

【河野委員】昨年度と今年度で、物理と化学の出品数が逆転しているのは切り分けの問題だと言うことでしたが、切り分けにくいものがたくさん出品されるのはよい事だと思います。垣根を取り払った自由な発想で、審査する側が困ってしまうようなものを推奨するというか。一つ一つサイエンス的な視点がしっかりしていることも大事ですけれど、全体を見るスコープのような、子どもなりに新しい視点で対象を見ているか、そういったところも評価してあげたらどうかと思いました。

【石井館長】総合的な学習と言って、境界を取り払うような学習を進めている中、審査基準が、狙いを絞っていくことになっているとすれば、工夫する必要があると思います。広い見方から面白い点を見つけました、そういう評価があってもよいのかと。ただ、ここで言っている分野とは、審査員の割り当て、誰に審査していただくかといったところで分けている便宜的な物ですが、境界の部分であったり、総合的に見る目であったり、そういったところを評価する何らかの方法を加えて行けたらと思います。実際、研究の部と工作の部についても、微妙なもの、境界に属するようなものはたくさんあります。

【伊藤委員】出品の中で、地学が研究も標本も極端に少なかったのはたまたまですか。

【大津指導主事】今年の天候が大きく影響していると分析しています。化石や岩

石を採集する天候に恵まれなかった、と。

【石井館長】地学の出品数は毎年多くはないのですが、質はよく、上位に入選する数は多いです。何年も取り組んでいるうちに、マニアックになっていく、といった印象を持っています。

【平吹会長】何年も継続して取り組むことに対するサポートはどのような体制になっていますか。

【大津指導主事】研究する児童・生徒の置かれている環境の影響は大きいと思っています。標本に関しましては、初出しのものが評価の対象になるということで、例えば毎年出ているものに付け足していった場合、付け足されたところしかその年の評価としていません。ただ、化石など採りためたものが、素晴らしい作品として出品されることはあります。残念ながら、科学館では経年的なサポートは行っていないです。

【本郷委員】親のサポートは必要だと思っています。学校現場だと、夏休みは教育相談、三者面談、県大会などの行事で、子どもたちも自由研究に取り組む時間がなくなってきていると感じます。そういったところが出品数にも影響していると思っています。

【石井館長】広い範囲から収集する標本系は、子どもだけでは限りがあるので、誰かがサポートしていることは確かですが、保護者の方が厚く手を掛けているものか、それとも、子どもが創意を持ってやっているものかは現場としてある程度わかりますので、注意しながら審査しています。

【平吹会長】子どもさんも教員のみなさんも大変苦労されていますね。ご家族もそうかもしれません。科学館では化石や岩石の観察会のようなフィールドワークはやっていらっしゃるのですか。

【菅井主任指導主事】化石や鉱物などの自然観察会を行っています。

【石井館長】入試制度の問題などで地学はピンチだと言われます。学ぶ人が居なくなっていると言われますが、科学館の行事では化石採集などの人気が高く、毎回抽選になります。好きな人は好き、といった感じですが、もう少し底辺が広がるとよいと感じています。

【和泉委員】そういった行事の広報はどういった形でされていますか。

【菅井主任指導主事】主に市政だよりとホームページです。ただ、市政だよりの紙面の割り当てが少なくなってきており、全てのイベントを載せられなくなっている点に苦慮しています。

【河野委員】地学を学ぶ方が少ないというお話ですが、何年後かに大変影響が出そうなテレビ番組がありますね。ああいった切り口がいろいろな分野で出てきたら面白いかと。地学だけではなく、その辺りの文化とか、総合的にうまく話をま

とめているので、とても参考になると思います。

【本郷委員】出品の点数ですが、ここまで減ってきている状況があるのであれば、今後検討が必要ですね。

【石井館長】考えてみたいと思います。

【平吹会長】部会の先生方の集まりもあるということですので、ぜひご議論いただき活性化にご尽力いただければと思います。

(3) その他

石井館長より、現在の委員の任期は来年3月末であるが、引き続き就任いただけるよう依頼。

5 事務連絡

次回の協議会の開催日時につきましては平吹会長と調整のうえ、事務局よりご案内いたします。

6 閉会

平成 年 月 日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長 印

仙台市科学館協議会 委員 印